

全国健康づくり推進学校表彰校の実践⑤

笑顔輝く鳥商生・地域に貢献できる社会人となるために
～基本的な生活習慣を確立し、基礎体力を高める実践～

令和2年度最優秀校 鳥取県立鳥取商業高等学校

1 学校紹介

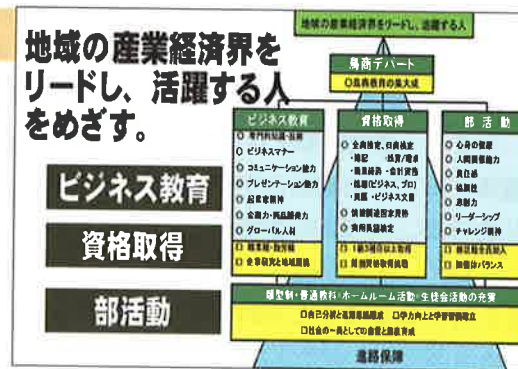
本校は本年度で創立110周年を迎えた伝統校である。目指す人物像として「地域の産業経済界をリードし、活躍する人」を掲げているため、ビジネス教育に力を注ぐことは勿論、資格取得（全商検定1級3種目以上、日商検定等の取得）にも励む。部活動も本校教育の柱のひとつとしており、心身の健康のみならず、責任感・協調性・忍耐力・リーダーシップ・チャレンジ精神等、社会に出たときに「即戦力」となる人材となるべく力を培っている。



2 学校経営方針と健康づくり

学校経営方針としては、「ビジネス教育、資格取得、部活動」を3本柱とし「地域の産業経済界をリードし活躍する人をめざす」ことを目的としている。鳥商生としての自覚と誇りを持ち自ら考え判断し行動できる生徒の育成を図っている。

人生100年時代において、高校生の今、基本的な生活習慣を確立し基礎体力を高めることが大切と考え、学校経営の中核に健康教育を据え、それを土台に様々な教育活動を行っている。



【学校経営方針】

3 特徴的な活動、特色ある取組

(1)「基礎体力づくり・集団づくり・鳥商生としての自覚づくり」の実践

① 商高体操

昭和40年当時の体育科教諭が考案し長年行われてきたが、時代の流れと共に実施されなくなっていた「商高体操」を平成24年度に復活させた。この体操は自己の身体のみを使って動きを表現し、身体の内面的な発育を目標とした基本的な表現運動のため、体幹の締めや四肢の伸展を意識し、他者との協調性を表現できなければ全体が統一性を持った美しい演技を披露することができない。完成度の高さを目指して繰り返すことが体力の向上へつながり、発表後の達成感へとつながっている。



【商高体操】

② 集団行動

集団行動は全員で力を合わせ一つの目標に向かって作品を作り上げるマスゲーム様の行動である。一人ひとりが一つの点になり、縦横斜めのラインを形成して動きを加えるが、これも他者との協調性がなければ、統一性を持った美しい演技にはならない。2年生の保健体育の授業で取り組み、体育祭で披露する。

③ 強歩大会

昭和50年度に体力づくりの一環としてはじまったもので、平成6年度を最後に実施されなくなっていたが、生徒の心身の健康づくりと地域への信頼回復を目的に平成24年度から再開した。再開した当時は女子27.0km、男子31.5kmだったが、近年は男女とも同じ距離26.2kmを歩く。4～7時間かけて、班員が励ましあって完歩する。9年経過した現在では、中継所やゴールで保護者や地域の方に温かいもてなしを受けるように変化している。



【強歩大会後のPTA炊き出し】

(2)「生徒が主体となる活動」の実践

① 健康教育LHR、健康教育プロジェクト

10年間にわたり健康課題解決のための健康教育LHRを実施している。開始当時は健康課題が山積みであったため、6年程は「睡眠・食事・運動」をローテーションで実施した。その成果もあり次第に生活習慣が改善されてきたため、平成29年度から生徒の実態に合わせた健康課題をテーマに実施し、健康課題解決の手立てとしている。現在は保健委員会を中心に健康教育プロジェクトを行っている。生徒の健康課題を解決する活動であり、健康教育LHRの企画運営やエイズデーの啓発活動を地域の関係機関等と連携して展開している。

② 鳥商デパート

鳥商デパートは本校教育の集大成であり、地域社会に認知された学校行事である。平成6年度から実施され、今年で27回目を迎える。3年間の商業教育の全てがデパート開催の2日間を支える。社長を筆頭に、販売部、管理部、イベント部、広報部と生徒主体の経営委員会を中心に組織され、各店舗の店長、会計係等全て生徒が主体となって、入念な準備をもって実施されている。

冬季実施のためインフルエンザやノロウイルス等の感染症予防に力を注ぐ。生徒は手洗いと換気を徹底し、お客様への手指消毒液を準備する。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、入場者を保護者に限定し入場前の検温や入念なアルコール消毒を促し、おもてなしと感染症対策を両立させた。鳥商デパートで養う「人間力を基底にしたビジネス実践力」は必ず将来社会に出て役に立つと信じてやまない。



【鳥商デパートの地元新聞記事】



【令和2年度鳥商デパート:ピニールシート越しの接客】

4 まとめ

継続は力なり。基礎体力を高める実践「商高体操」「集団行動」「強歩大会」と「生徒が主体となる活動」を通して心身の健康だけでなく、責任感・協調性・忍耐力・チャレンジ精神等を培えた。今では問題行動が少なくなっただけでなく、生徒の身だしなみやマナーアップ力は近隣学校の手本になる程になった。これらは検定等の資格取得率や高校卒業後の進路(就職率・進学率ともに希望者の100%)にも反映されている。

今後いかなる状況下になっても、生徒の心身の健康を第一に考え、これまでの健康づくりを継続しつつ、生徒が生き生きと笑顔で教育活動ができる環境を整えていきたい。